

# スキーの特性に応じた基礎理論 2)

築瀬 歩(愛知産業大学)

# 講習の内容 (受験者のためにP.10)

## ー築瀬担当部分ー

### 1. 環境変化とスキー指導

- 1) スキースポーツの環境
- 2) スキースポーツの特性
- 3) スキー連盟とは

10月30日 愛教大

### 3. スキーの指導方法論

- 1) スキー学習の構造
- 2) スキー指導の展開  
における指導者の役割

11月14日 愛教大

1月22日 焼額山

### 8. その他必要な知識

- 1) スキー用語

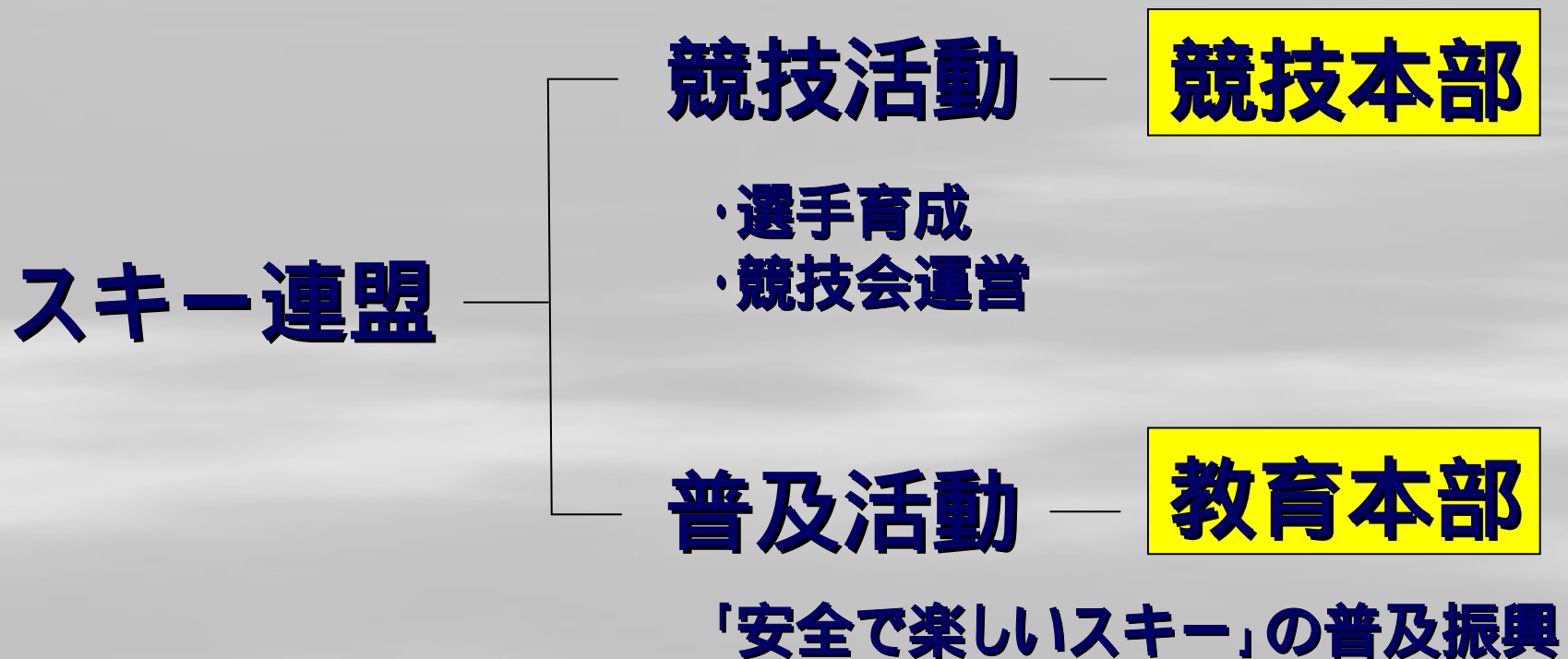
2月19日 朴の木

# 前回講習の補足

**3) スキー連盟とは**  
(『スキーへの誘い』PP.116～119)

# 財団法人全日本スキー連盟 (SAJ : *Ski Association of Japan*)

- 文部科学省認可の団体である。



# 教育本部

- スキーヤーへの窓口  
300余のスキー学校、4万7千の指導員  
アルペン、クロスカントリー、スノーボード
- 都道府県との連携

全日本スキー連盟

都道府県スキー連盟

所属団体(5500団体)

# スキーへの興味・関心を喚起する

## 教育本部 の活動

「スキーの日」

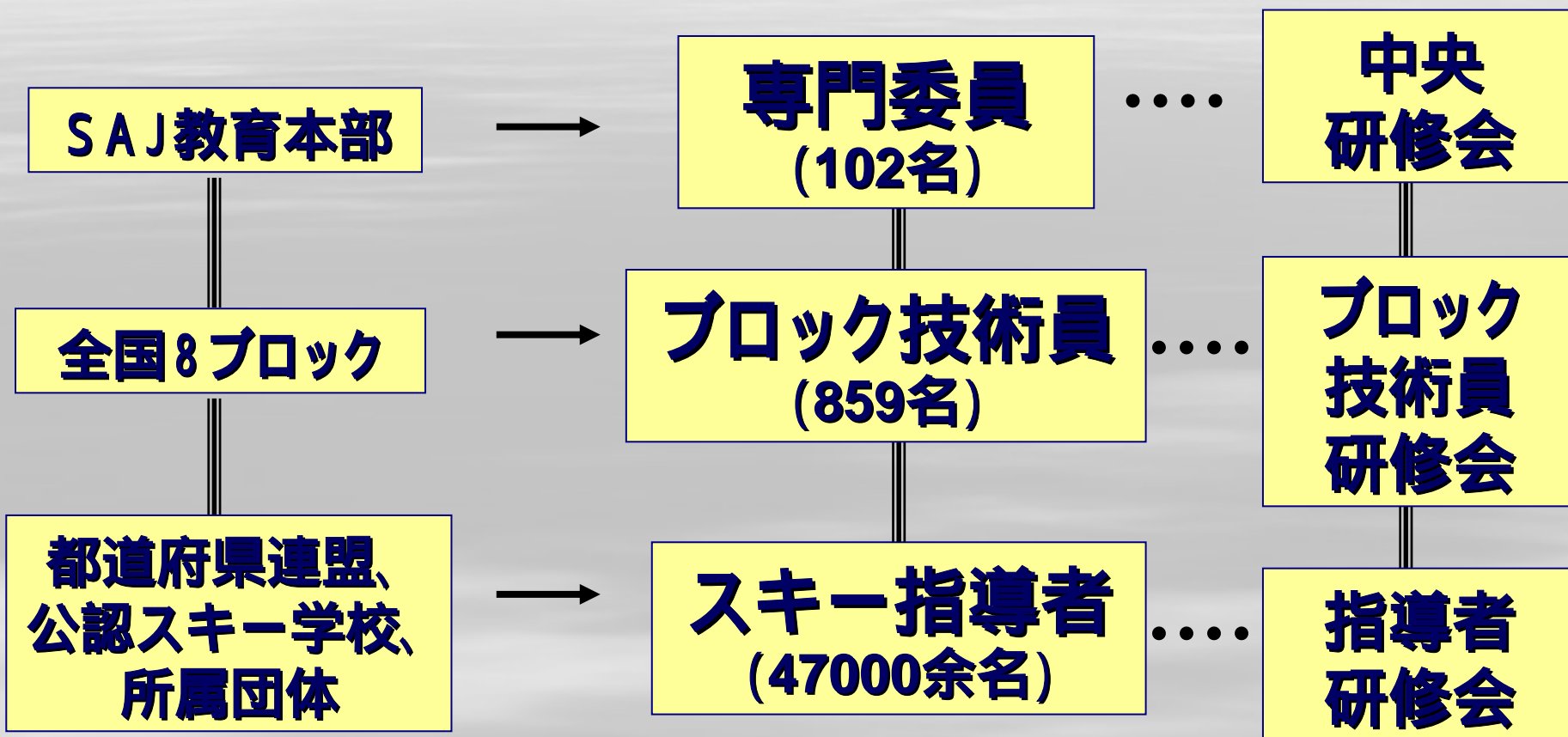
講習会・講演会

技術選手権大会

スノーサミット

情報発信

# 教育本部の指導体制



指導・バッジテスト・指導員検定等を実施

## **3. スキーの指導方法論**

### **1) スキー学習の構造**



**スキーの学習や指導は、よい学習の  
構造や条件を知るところから始まる**

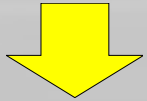
**スキースポーツの指導(技術指導と学習指導)**

**[「技術と指導」PP.11 ~ 13]**

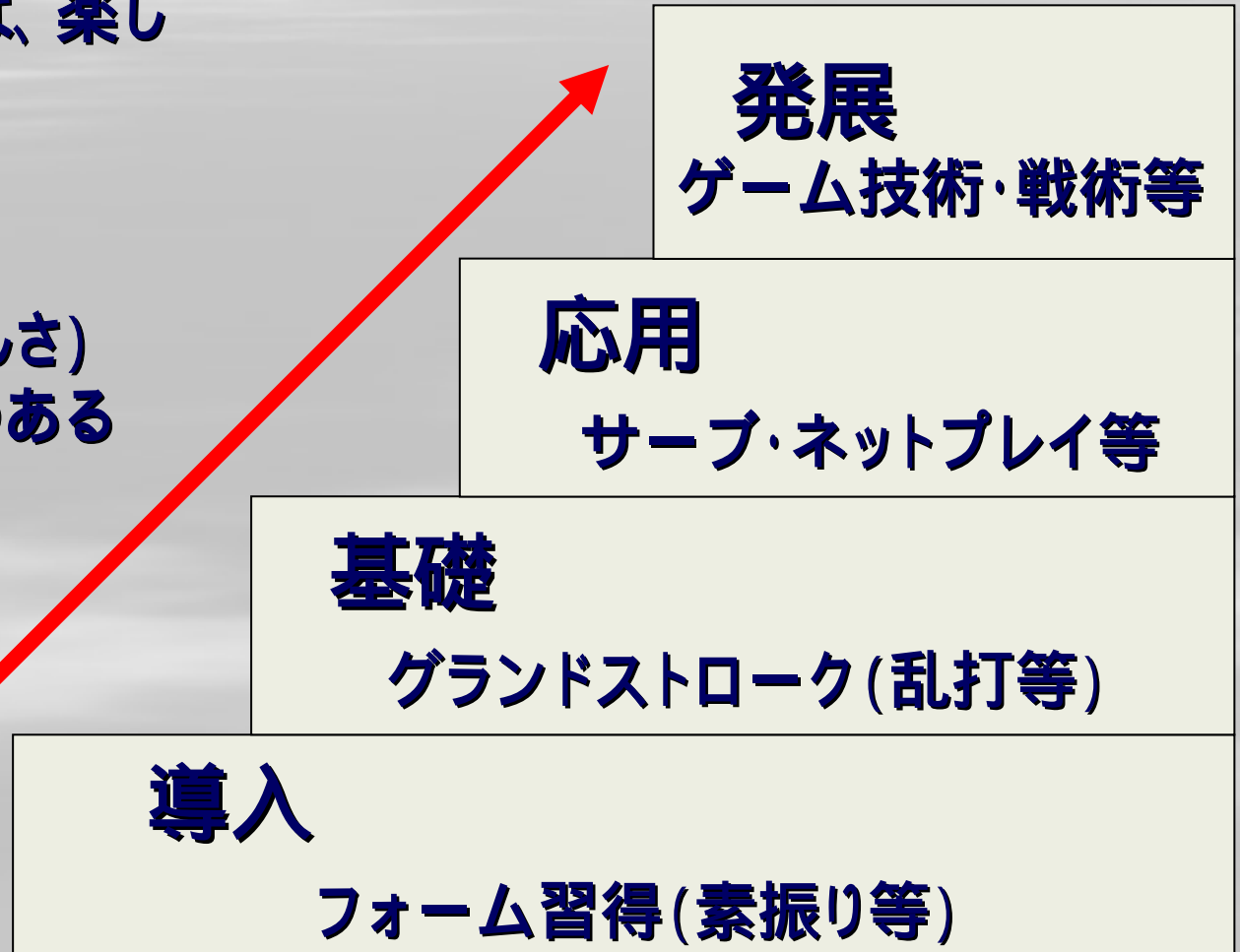
# 伝統的技術指導(階段方式)

<前提>

技術がなければ、楽しさを味わえない



個々の欲求(楽しさ)よりも、順序性のある技術を優先



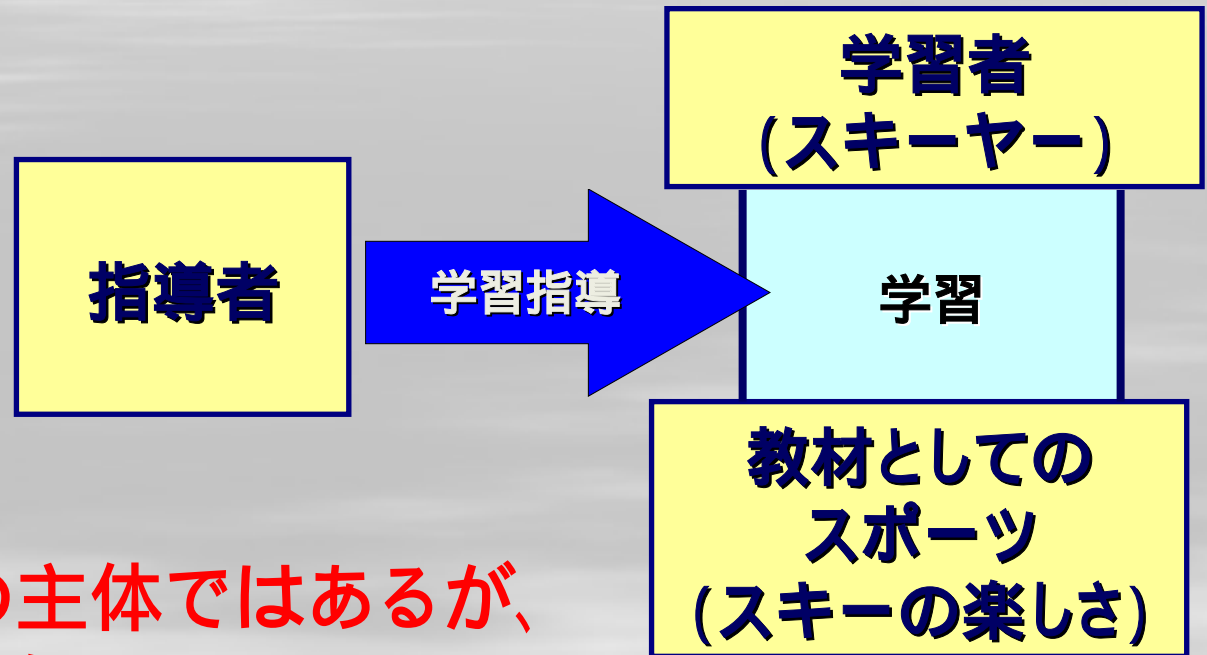
# 階段方式の問題点

上へ行くほど、そのスポーツ本来の楽しさに近づく。  
下へ行くほど、楽しさを味わいにくい。  
(素振りを楽しむか？ 登行 滑走の繰り返しは？)

上へ行けば、そのスポーツ全体が見えるが、下からは全体が見えない。そのため、全体にとっての部分の必要性が認知しにくい。  
(「なぜ素振り？」に初心者が答えを出せるか？)

初心者が「楽しくない、わからない」で、意欲がわくか？

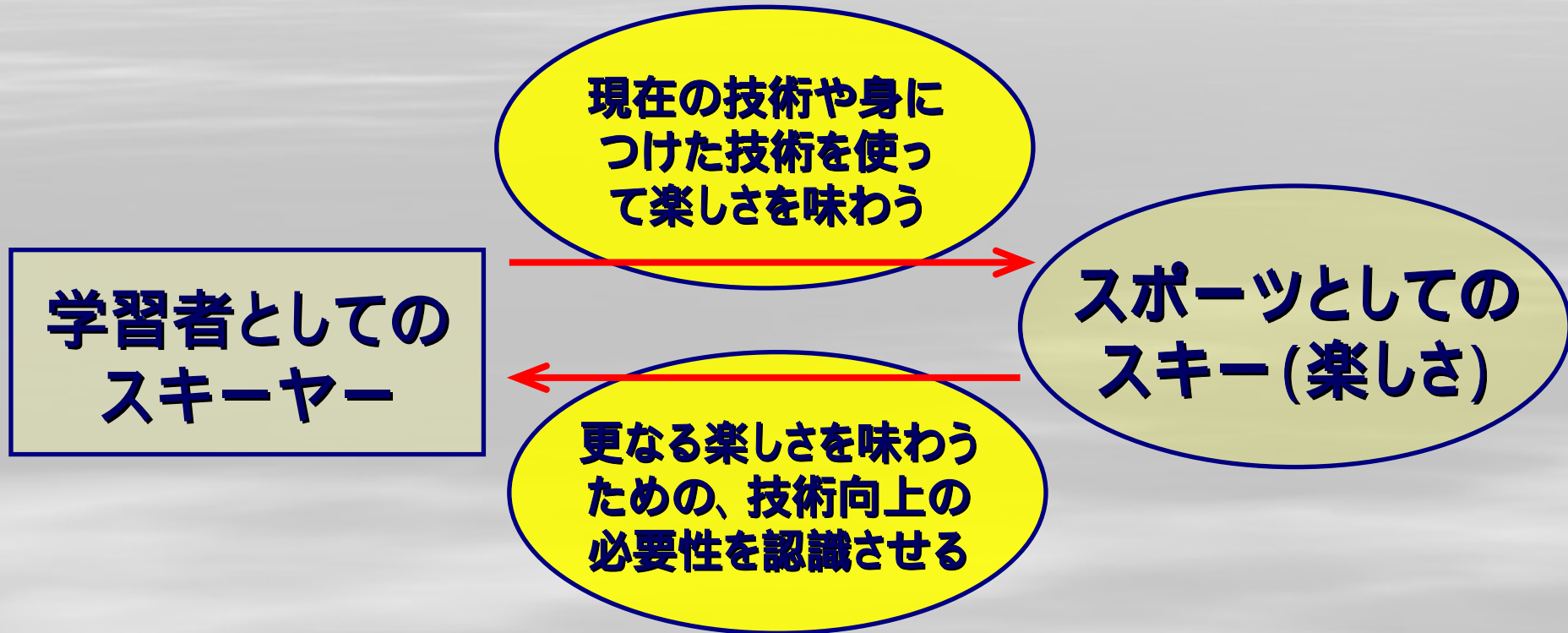
# 学習指導



指導者は指導の主体ではあるが、  
学習の主体ではない。

学習指導は、学習者の主体的学習を、間接的に  
支援する。「教える」側、「教える」ことが主体ではない。

# 「楽しさ」を鍵としたスキー学習



# 「はしご方式」(指導の本質性)

- 大切なのは技術の段階でなく、技術の本質性である。

例) × (段階) ブルークボーゲン、シュテムターンetc.  
(本質) テールコントロールによるターン運動

**スキー指導の基礎的理論と運動学習のメカニズムについて理解を深める。**

**よいスキー学習の構造**

**〔『技術と指導』PP.113～114〕**

**よいスキー学習を実現するための基礎的条件**

**〔『技術と指導』P.115〕**

# 良いスキー学習の構造

## ■ スキー学習の基本的な考え方

「楽しさ」を体得し、自発的・主体的能力を高めることによって、「生涯にわたって継続的に参加するスキーヤー」を育てる。

## ■ スキー指導のあり方

学習者一人ひとりに目をむけ、学習を「支援」する姿勢が大切。

## ■ スキー指導の目標

スキーの「楽しさ」と、文化としての「奥深さ」を体得させること。

## ■ 学習内容

中心は、スキー行動の問題を解決する「技術の学習」と「社会的行動の学習」。認識は学習の合理性を高め、「楽しさ」や「喜び」は、学習の副産物として得られる。

## ■ スキー学習の構造

良い「内容的条件」が設定され、更に「基礎的条件」が整備されていることが重要。



# 良いスキー学習を実現するための基礎的条件

